



# 山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院

2018.11.第39号

〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389

e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://y-ikuji.sakura.ne.jp/



## 秋の味覚

## サツマイモの収穫

山口育児院では子ども達と一緒に小さいながらも畑で野菜を育てています。先日、子ども達と育てたサツマイモの収穫をしました。「安納芋」と「紅あずま」の二品種です。

備中鉤で掘り起こし、できるだけ傷をつけないように丁寧に収穫します。土の浅いところだけではなく深いところにもあるので、見落とすことがないように、最後は手で掘っていきます。最初は本当にできていくかどうかと不安もありましたが、掘っていくにつれてゴロゴロと出てきて、サツマイモが見つかる、「あつたー」「やつた、大きい！」と喜びの声が上がりました。

「紅あずま」のほうはきれいな状態で収穫できましたが、「安納芋」のほうはなぜか大半が割れてしまっています。食べるには問題ないのですが、なぜ割れてしまったのか分かりません。これからこのことも調べて、勉強し、来年はもっと上手に育ててみたい。そう



いう好奇心でも育てていくのでしよう。この「山口育児院菜園」は、今は特定の児童と職員だけが行っていきます。しかし、自然から学ぶ、自然と共に生きるといったことは大切なことであり、みんなが興味を持ってくれると良いと思います。土に触れ、そこから命を頂く。素晴らしいことではありませんか。自然の恵みに感謝して、美味しい焼き芋を食べましょう！

## 歩々清風

前号で「お前は誰か」という本の話をしました。その問いのヒントになる話があるので御紹介します。

昔学生が「本当の自分とは何ですか」とある禅僧に問いました。その禅僧は、「きみは今日から、自分のことを勘定に入れないで何か一所懸命人の為に尽くしてご覧なさい。とにかく一所懸命人の為に尽くして、そして心から良かったと思える自分がいたら、それが本当の自分ですよ」と答えました。

如何ですか？天台宗の開祖、伝教大師最澄の「山家学生式」に「忘己利他」という言葉があります。己を忘れて他を利するということですが、それに徹する自分が本当の自分ということでしょう。肝要なのは「徹する」ということです。自分を知るといふのはなんと難しいことでしょう。(丁)

## 御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービスを実施しています。

### トワイライトサービス

仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

### 短期入所サービス

病気、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。



## 随処に主と作れば

## 立処皆真なり

## 施設長

## 武重俊之

私たちが生きている現実世界を「娑婆（しゃば）」と言います。「娑婆」はインドのサンスクリット語の「サーハ」に中国人が漢字を当てたもので、中国人はまた、「忍土」「忍界」と訳しています。つまり現実世界は、苦しみ、悩みが多く、それに「耐える」「我慢する」ところという意味です。

私たちには様々な苦しみがありますが、その中でも人間関係の苦しみが一番大きな問題となっており、それによるトラブルが連日のように報道されています。社会で生きていけば避けて通れない問題です。今、日本社会の現実、子どもも大人も、耐えること、我慢することが少し足りないような気がします。もちろん事と次第によりけりですが、何もかも「他人のせい」にし、すぐキレる、対立する、争う、無理やり己を正当化するという傾向が強くとにかく「忍」が足りないようです。とはいえ、「忍」「耐える」「我慢する」ということはとても

大変であり、苦痛を伴います。ただ我慢するだけでは苦しいと思いません。そこで、「赦す（ゆるす）」という気持ちを持つことが大切になってきます。相手を「赦す」という気持ちになって初めて心の安らぎが得られます。極端な例かもしれませんが、身内が殺傷された時の遺族の悲しみ、怒り、苦しみは、たとえ犯人が死刑になったとしても耐えるだけでは癒されません。「罪を憎んで人を憎まず」（出典は孔子の「古之聴訟者、悪其意而不善其入」）という言葉があるように、大変な努力が要るでしょうが、「相手を赦す」ことよってのみ癒され、安らぎが得られるのではないのでしょうか。

臨濟禅師は「随処に主と作れば、立処皆真なり」と説いておられます。「随処に主と作る」とは威張ることも自分勝手にすることでもありません。それはどこに行ってもその場所を愛せよということですが、愛情を持つということですが、

すべてが自分だと思い、愛情を持っていくならば、間違ったことなどできないと臨濟禅師は仰っておられます。どんなに辛い人間社会であつても、そこを愛していく。そしてその人間関係を愛していく。当然のことですが、容易なことではありません。

数十年前、私がまだ学生だった頃にこの言葉を知って、「嫌いなものを好きになんかなれない。どうしようもないじゃないか」と思っている、恩師に「嫌いなものは嫌いでいい。無理に好きになる必要はない。しかし、嫌いな嫌いなまま愛しなさい」と言われました。所謂禅問答のようですが、最近少しこの意味が分かってきたような気がします。

人間関係の悩みは、いつの時代にも存在する人間の根本的な苦しみ、問題です。「赦す」こと、「愛する」ことを実践できるように努力し、そして子ども達に伝えていくことが我々の責務ではないでしょうか。



### 盛況！山口ゆめ花博！ ～自分の花を咲かせよう～

平成30年9月14日～11月4日まで山口市で開催された山口ゆめ花博に、子ども達と一緒に行って来ました。幼児さん、小学生、中学生と3回に分けて遊びに行きましたが、それぞれ当日は19,618人、14,787人、45,558人という入場者数でした。中学生が行った日は日曜日だったこともあり、とても多かったのですが、幼児さんと小学生は平日に行くことができたので比較的ゆつくりと楽しめました。

広大な駐車場に並ぶ車を見てみると、県外からの訪問者がたくさんいることに驚きます。新山口駅から出るシャトルバスが、普段なら15分くらいで会場まで着くのですが、会期中、特に土日には片道3時間かかることもあったと聞いています。入場者数は百万人をゆうに超えたということです。

「ゆめ花博」という名の通り、このイベントのメインは「花」なのですが、子ども達は花よりもやはりブランコやアスレチック等、たくさん遊んで遊べるのが楽しいようです。そして、もう一つの楽しみはやはりお弁当です。一番最初に行った中高生の時はお弁当を持っていかず、さらには人が多くて現地で購入することもままならず、食事をすることにとても苦労したため、小学生と幼児さんの時

にはお弁当を持参しました。ピクニック気分です外で食べるお弁当は最高です。あつという間に平らげました(笑)。

普段なかなかこういう大きなイベントには参加できませんが、今回は地元開催のイベントということで十分に楽しむことができました。子ども達にとっては本当に良い経験になったのではないのでしょうか。

この花のように、一人ひとりの花を咲かせてほしいと願います。



#### 自分の花

小さい花でいいのだ  
人に褒められるような  
大きな美しい花ではなく  
誰からも足を止めて  
見られなくてもいい  
本当の自分自身の花を  
咲かせたいのだから  
それを神様、仏様に  
見てもらえばいいのだ

坂村真民の詩



### 院内ミニ運動会

10月20日、秋晴れの下、院内ミニ運動会を開催しました。毎年この行事にはボランティアサークルBBSの皆さんにも参加して頂いています。

近年は、サッカーやバスケットボール等球技が主でしたが、昨年からは運動会形式で行っています。今年のプログラムは次の通りです。

- ・ 開会式
- ・ 準備運動
- ・ それいけ！アンパンマン
- ・ 逃走中コロボ進撃の巨人
- ・ ふたりはプリキュア
- ・ 山口県の果てまでイッテQ
- ・ 育児院で一番盛り上がるのは何祭り??
- ・ 足多の縄(あしたのじょう)
- ・ 昼食
- ・ ドラゴンボール
- ・ 君の縄(きみのなわ)
- ・ ラブライブ!
- ・ 閉会式



さて皆さん、このプログラムを見てどんな競技が想像できるでしょうか？子ども達や若い職員にはどんな競技なのかなんとなく想像できましたようですが、参加最年長には「それいけ！アンパンマン(パン食い競争)」「くらいしか分かりませんでした(苦笑)。毎年係の職員は、苦心しながら子ども達のために一生懸命知恵を絞ってくれており、競技のネーミングだけでも子ども達は喜んでくれています。

この日は幼児さんから中高生まで、皆が一生懸命、仲良く、楽しく、怪我なく運動することができました。

お疲れ様でした！



### 食育で調理実習

#### ～親子どんぶり～

山口育児院では、食育の一環として定期的に調理実習を実施しています。幼児さん、小学生、中学生、高校生に分かれて、地域の交流センターの調理場を借りて行っています。

中学生の調理実習では、親子どんぶりとお味噌汁を作りました。予め用意されたレンピを見ながら、慣れない手つきで包丁を持って、真剣な表情で取り組みます。材料を切りますが、形や大きさが揃っていないのは「愛嬌。中にはちよつと詳しい子もいて、「大きさを揃えないと火の通り具合にむらができるよ！」という声も聞こえてきます。涙を流しながら玉ねぎを切る子、卵を割って溶く子、お味噌汁の味噌を溶く子、それぞれが役割を担って一つの料理を仕上げます。軽口をたたく子もいますが、それも楽しく行う調味料。こういった時には自然と皆が協力する姿が見られるので、それだけでも大きな意味があると思います。

さて、苦労して出来上がった親子どんぶりはどうだったのでしょうか？無事に完成して、「いざ実食！」となった時にハプニングが・・・。

一人の女の子が、「私鶏肉が苦手なの・・・」みんな一瞬固まりました(笑)。

それでも出来栄は上々で、みんなでワイワイガヤガヤ、楽しく美味しく頂きました。自分で作るというも以上に食が進むのは、その過程を経験するからだと思えます。

調理実習を通して食の大切さを感じてくれると嬉しいです。

